

小学校・第4学年・総合的な学習の時間・「防災マップをつくろう」①

活動のねらい

地域の防災の取組をよりよく理解するために必要な情報を、調査する対象に応じた方法を選びながら収集しようとする。また、防災マップをつくるために、事象を比較したり関係付けたりして理由や根拠を明らかにし、避難がしやすいように防災マップを作成しようとする。

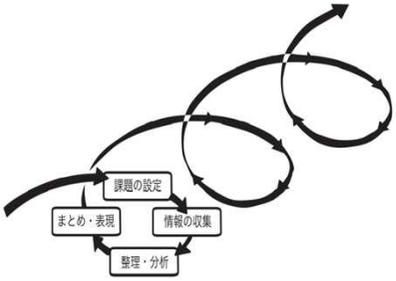
ICT端末活用のポイント（情報の収集）

多様な情報、多量な情報、最新の情報、加工しやすい情報を、いつでも、どこでも、素早く、手軽に調査し収集することが可能

例えば、インターネット検索、電子メールによる質問、ウェブ会議ソフトを利用した取材などを通して収集していくことが考えられる。その際、収集した多様で多量の情報をクラウド上に適切に整理・保存して、蓄積した情報の取り出しや共有が必要に応じて簡便に行えるように配慮する。

事例の概要

本事例は、災害時において地域には、どんな危険があり、どのような防災設備などがあるのかを情報収集する。フィールド調査では、避難所までの道路の様子や、防災に関わる標識などを撮影するとともに、その場所を地図上に記録する。また、取材では、インタビューした内容を繰り返し聞くことができるように、相手の了承を得ながら記録する。さらに、インターネット検索では、地域の防災計画などを自治体のホームページから入手したり、担当課の職員とメールでやりとりするなどして情報を収集する。



災害時にどのように避難すればよいのだろう。

グループごとに情報収集する。

調査結果を整理・分析する。

防災マップを作成する。

小学校・第4学年・総合的な学習の時間・「防災マップをつくろう」②

～ICT端末を使って、多量で多様な情報を収集する～

【フィールド調査】



【取材の記録】



【インターネット検索】



【ICT端末の活用のメリット】

- フィールド調査では、道路のほかに、道幅や建物などと場所を一致させて記録することで、それぞれが関連付けられた情報として収集できる。
※ICT端末が校外でもネットワークにつながっている場合は、GPSマップ上に示される位置情報と関連付けて記録することもできる。
- 取材では、インタビューを繰り返し再現可能なデータで保存するので、いつでも、どこでも、繰り返し、瞬時に確認することができる。
- インターネット検索では、最新の情報を、いつでも、どこでも、素早く、手軽に収集することができる。

【ICT端末の活用についての配慮事項】

- 多量で多様な情報の中から、学習課題の解決に向けて必要な情報を取り出せるようにする。
- フィールド調査における撮影では、安全面に気を付けるとともに、プライバシー保護の観点を踏まえる。
- インターネット検索では、情報過多とならないように、児童の発達の段階に応じて検索するウェブページを指定することも考えられる。

○ 活用したソフトや機能：写真撮影機能、ウェブブラウザ